

〈住まいに関する研究会報告〉

平成 22 年度第 1 回自立支援協議会において、さまざまな住居に関する問題が挙げられたことで、まず調査や情報収集を始めていくという「研究課題」として、相談支援事業所連絡会が核となり、住まいの課題に取り組んできました。

最初に「住まいに関する研究会」という名称を決め、現在まで 3 回話し合いの場を設けてきました。

1、構成員

向（中部大学）、可児（特定非営利活動法人で・ら・しえん）、田代（圏域アドバイザー）
尾崎（春日苑）、永井（かすがい）、下村（あっとわん）、梅村・宮原（JHNまある）

2、開催日時・内容

平成 22 年 12 月 22 日 10:00～12:00	今後どのように取り組んでいくか 各立場で感じていること、考えていること この地域で自分たちは何ができるだろうか
平成 23 年 2 月 23 日 10:00～12:00	先進地や魅力的な取り組みの資料や情報を持ち寄る 福祉制度内での課題や現状の情報交換
平成 23 年 4 月 14 日 10:00～12:00	先進地やさまざまな取り組みについて 春日井でどんな取り組みができるか 見学会について

3、詳細

地域で生活するには住居を確保する必要がありますが、現状は建物の構造や契約上の問題、家賃などの金銭的な問題、近隣住民との関わりなどのさまざまな課題があります。また、グループホーム・ケアホームの数に限りがあり福祉サービスや制度だけでは解決できない課題が多いため、福祉の枠にとらわれず、社会全体で協力して支援ができる体制を検討していきたいと考えています。

3 回の話し合いや情報交換をする中で、当事者やご家族が地域での生活をイメージしづらいこと、また支援者もより具体的なイメージを持って当事者に伝えきれていないことが分かり、今までに関わった事例などを持ち寄り検討してはどうかと意見が挙がりました。

今後は、先進的に取り組んでいる地域や事業所の見学に行ったり、事例を持ち寄りさまざまな地域生活を支える仕組みを考えたり、体験談などの情報を集めていきます。それらを視覚的にイメージしやすいリーフレットやビデオ等にする啓発資料の作成も検討していこうと思っています。